

平成 29 年 6 月 17 日

北関東フォーラム

於：シムックス

## 中斎塾 北関東フォーラム

### 平成 29 年度第 5 回

#### 本の読み方・付き合い方

先にご紹介する本を回覧致します。『人生は論語に窮まる』（谷沢永一・渡部昇一著 P HP 研究所）です。4 月に渡部昇一さんが亡くなられましたので、渡部さんの書かれた本を紹介したいと思って選びました。この本が出版された時、谷沢さんが 68 歳、渡部さんが 67 歳、2 人の専門家が自分の恥をさらけ出しながら論語の愛唱する章句を選んで、対論しています。

本の中で谷沢さんは、「論語をずっと読んでいたけれども、自分なりに本当に理解したのは 40 歳の時であった」と言っておられます。「論語読みの論語知らず」という言葉がありますが、字句の解釈はよく出来るけれども、孔子が何を言いたいのか、自分はどう受け取るのか、そういうことがさっぱり分からないままで論語を読んでいる人が非常に多い。本来、何のために論語を読むのか、そこらへんをよく考えなければいけないと感じました。

論語の解説本は色々出ていますが、私が良いなと思ったのは、洪澤栄一の口述筆記した『論語講義』です。谷沢さんは宮崎市定先生の解説した『論語の新研究』を読んで、知的ショックを受けたと書いています。ですから解説本も選ばないといけません。自分が、これだ！ と納得するものにぶつかるまでは色々なものを探すとよいでしょう。

本をどう読むか、本とどう付き合うか、これが大事だと感じましたのでご紹介しました。ちなみに本の読み方について、先週の東京フォーラムで私の体験談をお話したので、北関東フォーラムでも同じ話を致します。

第一段階は、自分が面白いと思う本を手当たり次第に読む時代です。私の子供の頃は、面白そうなものは何でもかんでも読んでいました。一番幼い頃の記憶にあるのは、父親がどこかの縁日で買ってくれた『少年ケニア』という絵本です。それが文章との出会いで、非常に面白かったことを覚えています。

小遣いが貰えるようになると、当時は貸本屋さんがありましたから、そこに行ってまず立ち読みで 1 冊読みます。しばらくすると貸本屋の親父さんがハタキを持ってパタパタ始めますから、買いたいと思った本を 1 冊買います。それからまた別の棚に行き、ハタキのパタパタが始まる前にもう 1 冊読んで満足して帰る・・・ですから貸本屋さんに行くとき 3

冊は読めるわけです。一時期は講談本にもハマっていました。今は講談本といってもご存知ない方が多いでしょう。とにかく活字中毒でしたから、本を読みながら歩いていて電柱にぶつかることも何度もありました。そのうち慣れたもので、障害物があるとすっと避けて歩けるようになりました。

本の虫になるのは、だいたい小さい頃の体験が大きいと思います。今の子供はスマホですね。スマホ中毒になっていると思いますが、スマホから出てくる知識がどういうふうに変えてくれるかは、これから楽しみなところですよ。

ということで、第一段階は本が好きで好きでたまらない環境で、色々な本と出会う。これは小さい時に限りません。とにかくどんどん本を読んで、色々な知識が入って来る段階です。

次に第二段階は、その中から自分の気に入った本を見つけて、深く掘り下げていくようになります。この本が良いなと思うと、著者はどのような人か気になります。その人が書いたものを他にも読みたいと思う。更に、著者が生きていれば会いたいと思います。前回もお話しましたが、私はペマ・ギャルポさんの書かれた『最終目標は天皇の処刑』という本を読んで、書かれていることは本当なのか、ペマ・ギャルポさんという人物は本物なのか、会って話を聞きたいと思いついて手を辿って会いました。そして、書いていることに嘘はないという印象を持ちました。ですから人さまにもペマ・ギャルポさんの書いたものは信頼できると言えるようになりました。

第三段階は、良いと思う言葉や文章を見つけて書き写すようになります。読みっぱなしにしないで書き写す。自分の手で書き写すという作業によって、その言葉が一層深く自分の心に沁み込んできます。この段階になると、良いと思った言葉が何かの加減ではっと閃く。そして自分の血肉になります。それは本を読んだり、書き写したりしている時に閃くのではなく、例えば物事を考えるのに最もよいとされる「三上」のような場面で閃くわけです。「三上」はご存知ですか？ 馬上…今でいえば電車や車で移動中です。廁上…トイレに入ってからリラックスしている時です。ですからトイレには良い本を置いておくとうれしいでしょう。それも重たい本ではなく、格言集や四字熟語のようにわずかな時間でも一目で頭に入ってくるような本をお勧めします。そして枕上…寝床です。眠りに入る寸前、或いは寝ている時にはっと閃くことがあります。安岡正篤先生は枕元に紙と鉛筆を置いていて、寝入りばな、寝ている最中、朝起きた時、気がついたことを書き出すことを習慣にしておられました。プロレスラーであり実業家でもあった力道山は、玄関から寝る所まで至る所

に紙と鉛筆をぶら下げていて、思いついた時に書き留める癖があったようです。ダイエーの創業者の中内功さんも大変なメモ魔でした。小さな手帳に目についたことを何でも書き込んで、後で別の人がそれを解読して、指示として出していたそうです。中内さんのメモから発した経営戦略がダイエーという大きな企業体を動かしていたわけでしょう。ただ、一人の能力で全部を見ることは無理ですから、仕組みが出来ないままダイエーは倒産に至ったと思っています。世の中に何かを為した人は、頭に浮かんだものを必ず活字で残しているようです。ということで、閃いたものを活字に残す、これが本と付き合う第三段階です。

最後の段階になると、人に紹介したくなります。もっともっと考えたくなり、知りたくなります。そして自分なりに追及して、これ以上先はないだろうと感じる。富士山の頂上に立った気分になった時、どうだ！ と満足する人と、逆に自分はまるで知らないではないか！ と自覚する人がいます。そこから先に自分の分からない世界が逆三角形のように広がって来る、そういう体験を味わいます。

私自身は今、何ともものを知らないのだろう、何と分からない事だらけだろうとつくづく感じています。ですから出来る限りその道・その道の専門家と親しくなって、分からない時には聞く。そういう人間関係をあちらこちらに持つことだと思って実践しています。

本を読むことによって人間の幅も広がるし、器も大きくなるし、更には人脈も出来てきます。私の場合、論語によって生まれた人脈が金融関係にも広がりましたし、当然仕事の上でも広がっています。友人関係もそれで広がっています。ですから一つのジャンル、その中で一冊の本に出会ったことはとても大切なことです。是非、自分にとって大切な本を見つけて戴くとよろしいでしょう。

本を読む原動力は何か。一言で言えば好奇心でしょうか、もっと知りたい、もっと知りたいという意欲、それが本と付き合う原動力になります。ちなみに西郷隆盛が沖永良部島に流された時は、行李（こおり）いっぱい本を詰め込んで持って行き、獄中で本と必死になって向かい合っていたようです。その中に佐藤一斎の『言志四録』がありました。

話をまとめましょう。

本を読む時は、手当たり次第に読めばよい。興味を持った本をどんどん読む。そうすると、自分の専門はこれだというものが見つかります。自分の専門の本をどんどん掘り下げて読んでいくと、自分なりの鉅脈にぶつかります。すると今度は、全く別のジャンルの本

が読みたくなります。そうなったらどんどん読めばよろしいわけで、専門以外の本から何かヒントを得る場合が沢山あります。私も一時期、マンガをかなり読んでいました。ですから自分が今どういう本を読んでいるかで、どのくらいのレベルなのかが分かります。

言葉も同じです。今、将棋で26連勝中の中学生が話題になっています。まさに「後生畏るべし」です。例えば、会社の中で「こいつは凄い」と思う次の世代が出てくる。そうすると、その人を育てることが自分の仕事だと思ようになります。一回りくらい若い世代で、自分の持っている知識や能力をはるかに超える人間が出て来る。それが「後生畏るべし」で、そういう人物を「畏友」と言います。『陽明学のすすめⅡ 安岡正篤「六中観」』の前書きでは、安岡正泰先生が私のことを「畏友、深澤賢治氏」と紹介して下さいました。なかなかこういう難しい言葉は普通使いません。ちなみに木内信胤先生は、私のことを「若い友達」と言っておられたと息子さんの木内孝さんに伺ったことがあります。これまた木内先生らしい言い方だと感じます。

ですから言葉一つをとっても、この人はどの程度言葉に造詣があるのか、どの程度本を読んでいるのか、どの程度読みこなしているのか、どの程度教養があるのか・・・等々に繋がります。やはり日本人らしい日本人だと思われるような人は、とても良い言葉を使うようになります。

### **最近の事例から・・・**

最近、或る会社からこんな相談を受けました。一部上場企業の元社長さんが、順調に功なり名を遂げて引退をしました。自分の持っていた株もすべて会社に渡したから、もう会社とはまるっきり縁がなくなっているのですが、その人がどういう訳か生活費に困って、元の会社から某かの金を引き出そうとしておかしい動きをしているというのです。

人間というのは、順調にいつている時は良いのです。引退した後に自分の生活費が順調に回るような仕組みを作っておかないと、尚且つ、自分の生活レベルを慎ましくしておかないと、悲惨な人生の終盤を迎えることになります。ですから自分の人生を所々で見直しをされるとよいでしょう。下流老人という言葉が出て来ていますが、今の世の中は順調にいついても最後まで上手くいくとは限りません。日本は働けば働くほど、稼ごうとすればするほど、罰金のように税金がかかります。今、収入が38万円以上になると年金がカットされ始めます。きちんと税金対策をして、まともに暮らしていけるようにしておかなければいけないと最近つくづく思います。とにかく今の方は長生きしますので、用心・用心です。

私の周りを見ると、80代、90代の方が沢山おられます。その方々に共通していることは、引退するまでに自分の収入で生活がきちんと保てるだけの仕組みをこしらえています。会社のトップだった人は、2代目・3代目が順調にやれるような安心感をもって辞めています。しかも、後々相談を持ちかけられるような人間関係を作っています。今日の論語にもある「信」を実行していると感じます。

### 「好みて小慧を行わば難きかな」—安倍政権は如何に？

では、論語の解説を致しましょう。本日は衛霊公篇 15～17 です。

**【十五】** しいわ 子曰く、これ 之を如何にせん、いか 之を如何にせんと曰わざる者いは、もの 吾 われ 之を如何とこれもいかんな すること未なきのみ。

孔子が言うには、どうしよう、どうしようと思うだけで口に出さない。何も言わない人間は、私もどうすることは出来ない。

馬に水を飲ませようと川辺に連れて行くことは出来ても、水を飲ませることは出来ません。馬が飲みたいと思わない限り、馬は水を飲まないでしょう。中斎塾フォーラムも同じです。学びたいと思っていない人に、学ばせることは出来ません。

氣になることや知りたいと思うことがあったなら、先ず自分で調べる。分からないからとすぐに人に聞くのではだめです。自分で調べて、分からなければ専門家に聞く。そういうことを繰り返していくことが肝心です。

孔子の場合、弟子が 3000 人の大先生ですから、孔子の下に先生が沢山いて、またその下に先生が沢山いるわけです。入門したばかりの人であれば、直接トップの孔大先生に聞くことはできません。途中の先生方に教えを請いながら、最終的に、この問題は孔先生に教えを請うしかない！ ということになって初めて孔先生の話聞くことが出来る。その熱意が上を動かしていくのです。

ですから本当に心の底から知りたいと思うことがポイントで、そうすれば道が開いてくる。どうしよう、どうしようと思わない人は、お師匠さんもどうすることも出来ない、とお考え下さい。

次の文章も同じようなことを言っています。

**【十六】** しいわ 子曰く、ぐんきよ 群居すること しゅうじつ 終日にして、げん 言 ぎ 義に及ばず、およ 好みて この 小 しょうけい 慧 おこな を行わば かた 難きかな

孔子が言うには、群れ集まって終日くだらない話をしても、道義に触れる話はしない。小賢しい智恵を働かせて私利を求めるような人間はどうにもならない。

「小慧」とは、小賢しい智恵です。

先ほど川村代表幹事が言われた森友学園、加計学園の問題で考えれば、官邸と官僚の両方で小慧を行っているから、実にみっともない。あれほど国会が劣化したと思われる出し物はないと思ってテレビを見ています。彼らこそ、こういう論語を読めばよいのですが、「縁なき衆生は度し難し」で、なぜこういう人達に票を入れるのかと思うようなドラマが展開しています。安倍さんは、本当にこの人のために獣医学部を新設させたいと思ったのなら、きちんと政治家として責任をとる腹で手続きを踏んでやればよいのです。自分や奥さんが関係しているなら辞めると言っているのですから、もう辞めてもよい時期でしょう。それを、忖度しなさいと周りに押し付けているのですから卑怯です。まさに小慧（悪知恵）です。

川村代表幹事が「大臣はあれでいいのか？」と言われましたが、いいはずがありません。こういうみっともない状況を見て、結論が一つ出ました。それは、上がつかえていると腐るということです。安倍さんはさっさと退陣すべきです。

会社も同じで、社長を何年も長くやるものではありません。さっさと勇退すべきです。一度トップになったら、周りがおもねりますから、耳障りの良い話しか入らなくなります。表面的には和やかな良い関係でも中身は分かりませんから、一步下がって客観的に見る癖をつけておかねばなりません。問題は、長すぎることの弊害です。だいたい創業者が30年やったらボロボロになります。私も会社を創業して30年経って、ボロボロになってバトンタッチしました。

テロ等準備罪法案もまさにこの論語の通りです。国会で夜遅くまであんな茶番劇をやっても、人間としての道には及ばない。議員連中が悪知恵ばかり働かせていたのでは、国民は見放してしまう、と読めばよろしいでしょう。

しいわ　くんし　ぎ　もつ　しつ　な　れい　もつ　これ　おこな　そん　もつ　これ　いだ　しん  
【十七】子曰く、君子は義 以て質と為し、礼 以て之を行い、孫 以て之を出し、信  
もつ　これ　な　くんし  
以て之を成す。君子なるかな。

孔子が言うには、君子は道義をもって本質とし、礼をもって実行し、謙遜した言葉で表現し、信義を違えない。これを成し遂げてこそ、国民は信頼をする。それが君子というものだ。

言葉に出して約束をし、信義を違えず実行する。この繰り返しをしている者こそ君子などと、孔子が嘆息しながら言っているとお考え下さい。

何事によらず、口に出しておくことは必要です。憲法改正も、安倍さんはきちんと手続きを踏んでやればよいものを、姑息な格好で裏でこそこそするからおかしなことになるのです。義を根本に据えて、礼にもとづいて実行し、謙遜の言葉で表現する。それで国民の信頼を受けて成し遂げればよいのです。

そう考えると、安倍さんよりトランプさんの方がまだましですね。まともに自分の本音をはっきり宣言して動いています。ですから敵味方がはっきり分かれていますし、その叫びで共和党の議員が撃たれているわけでしょう。それはそれで犠牲になるのは仕方ありません。日本も明治時代は暗殺されるのが当たり前でしたから、いかに今の時代は命がけで行動する人がいなくなっているかということでしょう。ですから日本は、もっともっと落ちるのが目に見えています。本日の論語で現代を見ると。あまりにも乖離していると感じます。

中斎塾フォーラムでは毎回、論語の中から現代に通じるものを発見して下さいとお話していますが、論語を読みこなせなければ見えて来ません。それには論語を何度も何度も読み返して、自分自身の言葉・血肉にしておく。そうすると別の文章を読んだ時に、ふっと論語の言葉がぶつかって融合する。それで自分の心の中に論語が沁み込んで来ます。

## **七十歳の自覚**

今年、私は70歳になりました。今迄、私は本を汚してはいけないと思っていました。今、回覧している本は、めったやたらにマーカーが引いてあります。今年から、本に書込みをしたり線を引いたり、本を汚しても良いと決めました。というのは、書込みをしても後世の批評に耐えるものが書けるであろうと思ったからです。「七十にして心の欲する所に従へども矩を踰えず」で、どこにマーカーを引いたとしても誰からも文句を言われなし、言われてもどうってことはないと思っています。どうしてこんな注釈を書いたのかと聞かれても、それなりにきちんと答えられます。ですから今年から、本は汚すと決めました。

もう一つ、今年から極力名刺交換をしないと決めました。後で色々と煩わしいことができるからです。木内信胤先生は歳をとられてから、名刺を受取りませんでした。「あとが大変だし、一々覚えられないから」と言っておられました。私も今は名刺交換を出来る限りしたくないと思っています。

それから、なるべく約束をしないと決めました。新しく知合いになった人からの質問などはその場で終わりにするか、本人に調べるように言って、本人が努力をしたのを見てから返事をするようにしました。ですから大分、楽になります。

更に、これから始める事業については後始末をしないと決めました。新しい課題等についても後始末はしません。以前は、新しい事業を始めたら自分で全部指示をしてチェックしていましたが、今は誰か代替りの人をおいて、色々な問題の後始末は任せるようにしています。

具体的に申しますと、今、農業法人を始めています。今朝の日経新聞に「農業参入甘くないー吉野家、神奈川で撤退」という記事があります。これまでオムロンがトマトの生産をしたけれど失敗。ニチレイが野菜の貯蔵と加工を手掛け、これも失敗。東芝も植物工場を閉鎖・・・と、農業に参入した企業がどんどん失敗しています。なぜそうなったかについては、本業のノウハウを生かそうとして参入し、あまりに儲からないので見切りをつけたという解説がされています。私の場合、農業に参入して儲けようとは思っていません。食べ物がなくなった時に生きていけるようにするのが目的ですから、全く違います。ですから成功するまでやるつもりです。

この農業法人は、社長は別にいます。ですから色々な事業の後始末はその社長がすればよい。会計事務所がいるから会計事務所に任せればよい。そして私は見て御託を並べる役にしました。ということで、新しい事業は須らくすべて私は後始末をしないとという仕組みで作っていくと決めました。

**名刺交換をしない、約束しない、仕事の後始末をしない・・・このように<やらない>と決めたのは、70 という年齢を自覚したからです。**周りを見ても、90代は自分が思っているような理想的な動きは出来ないだろうと思います。80代はまだまだ元気な方が沢山いますから、あと20年は自分の思ったことが出来ると思っています。

尚且つ、自分なりの始末を5年間で一区切りをさせようと思っています。経済面、生活面、体力面等々、全部を形作ってしまおうと思っています。

限られた5年間、残された自分の好きなように動ける20年間でどうするか……。やりたい事が沢山あるから、やりたい事をやろうと思っています。今、やりたいと思っている事は、体力の強化と脳力の強化です。この2つは死ぬまで発展を続けるという科学的な裏付けがあることを専門家から聞きました。体力の強化は1年間、毎日自転車に乗り続けた結果、筋肉が発達しましたから、可能であると実感しています。脳力の強化は認知症予防対策をやればやるほど脳力が活性化して、色々なものが吸収できると実感しています。

ですからこれからの5年間は、体力の強化と脳力の強化を頑張りたいと思っています。他には、旅をしたい、本を読みたい、本を書きたい……。色々やりたい事がありますので、そのために時間を捻り出そうと思っています。そして最後には「良い人生だった」と言ってあの世に行ければ文句はないし、この世に残せるものはこれだ！と明確にして、後世の役に立ってあの世に行きたいと思っています。今年はそういう準備のスタートの年になりました。

他にも新聞記事を幾つか持ってきましたが、お時間が参りました。

- ・「タカタ、失われた10年 — 民事再生法申請へ」
- ・「米先行 動けぬ日銀 — 金融緩和9か月連続維持」
- ・「米マクドナルド 五輪の協賛撤退」（すべて6/17付 日経新聞）

これらは皆、人さまから信頼を失うことによって転げ落ちていくという例です。なぜ信頼を失うことになったのか、真剣に考えていない人達ばかりが世の中にあふれています。お互いがお互いを信頼しあえるような関係になってゆけば、日本の国は良くなるし、世界もまた平和に向かって進むであろうと思います。もしも北朝鮮がそういう関係になれば、世界は一步進んでゆくことになると思います。

以上で本日の講話を終了致します。有難うございました。